



有家中だより No3

令和8年 5月25日
南島原市立有家中学校
校長 本多 洋二

大盛況！体育大会終わる！

去る5月17日に雲一つない晴天の中、体育大会を実施しました。今年度は、一人一人が輝け、生徒が創る体育大会というテーマのもと。生徒たちが、練習から、会場設営、当日の運営、後片付けに至るまで、主体的に動き、自分たちが創り上げた体育大会でした。また一つ、成長した生徒の姿を見ることができました。有中生徒のパワーを感じた一日でした。

保護者の方々からは、「楽しかったです。生徒がよく頑張っていました。」というお褒めの言葉をいただきました。また、「先生方が走られたりレーが見応えがありました。」という声もありました。早朝からのご観覧、ありがとうございました。



インターネットの闇

スマホなどのSNSの使用時間と学力の相関関係を昨年度の学校便りで紹介しましたが、今回は、実際に今問題になっていることを紹介します。(長崎県メディア指導員の話から抜粋)

◎ネットいじめ問題

ネットの人権侵害による相談件数が過去最多であり、色々な通信機器を使い、ネットに「きもい」「嫌い」「うざい」など誹謗中傷され、精神的に不安定になって外出できなくなった深刻なケースもある。ラインやメールなどによるいじめが増加しているとのこと。

◎犯罪に巻き込まれる危険

小・中・高生が軽い気持ちでネットに接続し、写真や動画を送り、全世界に広がったり、軽い気持ちで会った人から暴行を受けたりと、犯罪に巻き込まれているとのこと。

(右上へ)

(左下から)

◎お金の浪費

有料サイトに接続し、知らぬ間に何十万の請求が来たり、ゲームをしているうちにキャラクターをクレジットカード(ネット上)で購入し、知らぬ間に、何十万もかかっていたとのこと。

◎依存による心と体の病

中学生が、食事中も入浴中も布団の中でもスマートフォンを触っていたため、見かねた父親がスマホを取り上げた。すると中学生は豹変し、包丁を持ち、「殺すぞ」と発言、父親が一喝すると、自分の手首に包丁を向け、「死ぬ」と言った子どもの表情が尋常ではなかったため、スマホを返した。途端に子どもは力が抜け、床に座り込んだとのこと。その間の出来事は覚えていないとのこと。

<対応策(保護者の方へ)>

○親や大人に見せることができない携帯やスマホのメールやラインへの書き込みはさせない。

○使用時間を決めること。布団の中や食事中は触れさせない。(保護者へ返す)

○メールやサイトへの書き込みは保護者がチェックする。(見せることができないものは危険)

※使い方を間違えると加害者にも被害者にもなるスマホなどのSNS利用です。十分に気をつけてほしいと思います。

※ある意味、判断力が乏しい子どもですので、我々、大人が守る必要があります。



<力強く宣誓をするリーダー><堂々とした会長>



<腕を高く上げて行進する生徒会>

生徒がつくる
体育大会を
実現しました。全
校生徒の思い
を重ね、頑張り
ました。

6月・7月の主な行事

6月

- 3日(水) 歯科検診(1年生 13:30~)
- 5日(金) 市中総体激励会・写真撮影(アルバム用)
- 6日(土) 市中総体(ソフトテニス)
- 13日(土) 市中総体(球技・武道・陸上)
- 14日(日) //
- 16日(火) 全校集会(表彰伝達式)
- 21日(日) 家庭の日
- 29日(月)~7月4日 有家っ子の心を見つめる
教育週間
- 30日(火) 職場体験学習(2年)

7月

- 1日(水) 職場体験学習(2年)
- 3日(金) 授業参観(道徳)学年PTA
- 4日(土) PTA学級対抗モルック大会(予定)
- 17日(金) 1学期終業式

ブレイクコーナー

自分の考えや人の受け売りです。
気軽にお読みください。

啐啄同時(そったくどうじ)

「啐啄同時」この言葉を御存知でしょうか。もともとは、仏教用語で、禅の教えによくつかわれる言葉だそうです。

啐：鳥のひなが、卵から生まれ出ようとする時、卵の殻をつついて音を立てること。

啄：親鳥が外から卵の殻をついばんで破ること。

「啐啄同時」この2つのことが同時に行われ、はじめて殻が破れひなが生まれること。

この言葉、卵の中のひなと親鳥の関係を表しており、両方が一致してひなが生まれる。「機を得て、両者相應じる得難い好機」という意味だそうです。また、この言葉は、師弟関係や親子関係の在り方についても教えている言葉だと言われています。

師弟関係では、弟子の修行が円熟したことに気づいて師匠が悟りの機会を与える。この場合、弟子も師匠の意思に応じる境地に立っていなければなりません。つまり、双方が意思相合することが大切なのです。

親子関係での「啐啄同時」とはどんな時でしょうか。親の指導と子どもの意識が一致した時、その指導の成果はあがります。今、指導する時期ではなく、もう少し待てば自然と身に付くこともあれば、今指導しないといけないのに、機を逃してしまい、身に付くことができない場合もあります。

双方が一致した時に、その指導の成果は高まります。具体的な例として、こんなことがありました。

『親と子どもが二人で歩いています。子どもが、ある家の庭を見て、「お花がとってもきれいだよ」と言いました。するとその親はスマホの画面を見ながら、「よそ見しないで前を見て歩きなさい。急いで帰るよ。」でした。』ここで、「ほんとだね。きれいだね。きれいな花に気づいた〇〇もすごいね。家でも花を植えてみようか。」と言葉かけをすれば、子どもは、さらに美しいものを美しいと感じる心を育てるのではないのでしょうか。